

令和元年度10年経験者研修教科指導研修シラバス

小・中学校 国語科 教科指導研修

1 研修日程

(研修者：小学校108人、中学校44人)

期 日	時 間	研 修 内 容	会 場
第1日 8月20日 (火)	9:00~ 9:30	受付<総合教育センター講堂前>	総合教育センター
	9:30~ 9:40	オリエンテーション	講堂
	9:40~10:30	【講義Ⅰ：全国学力・学習状況調査の結果と課題】 総合教育センター研究指導主事	
	10:30~10:50	移動（レポート丁合を含む）	
	10:50~12:30	【研究協議Ⅰ：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習計画について】 小学校部会 講師 小中学校教諭（4名） 中学校部会 講師 中学校教諭（2名）	第1講義室 第2講義室 第3講義室 第4講義室 第5講義室 第7講義室
	12:30~13:30	休憩	
	13:30~16:00	【講義Ⅱ：求められる資質・能力と小中学校国語科の授業と評価①】 講師 大学教授	講堂
16:00~16:30	教科指導研修の振り返り（発表・アンケート記入）、諸連絡		
第2日 8月23日 (金)	9:00~ 9:30	受付<総合教育センター多目的ホール>	総合教育センター
	9:30~ 9:40	オリエンテーション、諸連絡	多目的ホール
	9:50~16:20	【演習Ⅰ：言語活動を通して「思考力・判断力・表現力」等を育む授業づくり】 小学校部会 講師 小中学校教諭（4名） 休憩 12:00~13:00 中学校部会 講師 中学校教諭（2名）	第1講義室 第2講義室 第3講義室 第4講義室 第7講義室 第8講義室
	16:20~16:30	教科指導研修の振り返り（アンケート記入）	各講義室
第3日 8月26日 (月)	9:00~ 9:45	受付<総合教育センター講堂前>	総合教育センター
	9:50~12:30	【講義Ⅲ・演習Ⅱ：自分の考えを形成し、深める「書くこと」の指導】 小学校部会 講師 小中学校教諭（4名） 中学校部会 講師 中学校教諭（2名）	第1講義室 第2講義室 第3講義室 第4講義室 第7講義室 第8講義室
	12:30~13:30	休憩	
	13:30~16:00	【講義Ⅳ：求められる資質・能力と小中学校国語科の授業と評価②】 講師 大学教授	講堂
	16:00~16:30	教科指導研修の振り返り（発表・アンケート記入）、諸連絡	

2 連絡事項（課題等）

<p>連絡事項 (課題等)</p>	<p>第1日</p>	<p>【持ち物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前提出した課題を、26部印刷して持参する。 <p>【課題及び提出について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた国語科の授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んだ実践事例をまとめる。 ○今年度の実践が望ましいが、同じ校種であれば昨年度のものでもよい。 ○単元・教材は自由。 ・課題様式 A4判1枚（「3 課題様式（記入例）」参照） ・提出期限 令和元年7月19日（金）必着 ・提出方法 郵送または持参 5部（当日持参 26部） 														
	<p>第2日</p>	<p>【演習（授業づくり）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下表の題材の中から、物語文、説明文のどちらか一つを担当し、4～6人のグループで授業づくりを行う。 <table border="1" data-bbox="411 801 1458 1034"> <thead> <tr> <th>校種</th> <th>地区</th> <th>物語文</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>尾張</td> <td rowspan="2">『大造じいさんとガン』 (小5 光村・東書)</td> <td>『自然に学ぶくらし』(小6 光村)</td> </tr> <tr> <td>三河</td> <td>『イースター島にはなぜ森林がないのか』 (小6 東書)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td></td> <td>『握手』(中3 光村)</td> <td>『モアイは語る』(中2 光村)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・担当する題材（物語文、説明文のどちらか）やグループ分けについては、第1日の名簿で確認する。 <p>【持ち物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、演習（授業づくり）に必要な資料等 <p>【課題及び提出について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	校種	地区	物語文	説明文	小学校	尾張	『大造じいさんとガン』 (小5 光村・東書)	『自然に学ぶくらし』(小6 光村)	三河	『イースター島にはなぜ森林がないのか』 (小6 東書)	中学校		『握手』(中3 光村)	『モアイは語る』(中2 光村)
校種	地区	物語文	説明文													
小学校	尾張	『大造じいさんとガン』 (小5 光村・東書)	『自然に学ぶくらし』(小6 光村)													
	三河		『イースター島にはなぜ森林がないのか』 (小6 東書)													
中学校		『握手』(中3 光村)	『モアイは語る』(中2 光村)													
	<p>第3日</p>	<p>【持ち物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>【課題及び提出について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の指導や取組について、発表・報告できるようにしておく。 														

3 課題様式（記入例）

令和元年度10年経験者研修教科指導研修 小中学校国語科

受講番号																	
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた国語科の授業改善																	
（章立ては、左記のとおりとする）																	
1 授業改善のポイント																	
(注1)																	
2 授業改善のポイントを踏まえた学習指導の実際																	
(1) 教材『○○○○○』について																	
(注2)																	
(2) 単元目標																	
(3) 単元計画（○時間完了）																	
時	主 な 学 習 活 動	ねらい・教師支援	評価規準（評価方法）														
1	(注3)																
2																	
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;">(4) 授業の実際</td> <td style="width:30%;">ア ○○○○○…（第○時）</td> <td style="width:10%; text-align:center;">(注4)</td> <td style="width:50%; border-left: 1px dashed black;"> 【課題作成上の留意点】 (注1)「1 授業改善のポイント」においては、改善点や工夫点等、本実践における特筆すべき点を簡潔に明記する。以下、この「授業改善のポイント」を踏まえて、重点的に記載する。 (注2)「2(1) 教材『○○○○○』について」においては、教材の特質や魅力及び、その教材を用いてどんな資質・能力を身に付けさせたいか、どんな学力を伸ばしたいかを明記する。 (注3)「2(3) 単元計画」においては、時間数ごとに、主な学習活動とそのねらい・教師支援、評価規準等を簡潔に明記する。 (注4)「2(4) 授業の実際」においては、単元の全てを記載するのではなく、「1 授業改善のポイント」を踏まえて、重点的に記述する。その際、単元計画の第何時にあたるかを明示する。 (注5)「3 成果と課題」においては、児童生徒の学びや姿から、本実践（授業改善）の成果を記載する。その一方で、実践を通して明確になったさらなる課題についても記述する。また、本実践だけでなく、日頃の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の中で、課題や疑問、明らかにしたいこと等について記述してもよい。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td>イ ○○○○○…（第○時）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										(4) 授業の実際	ア ○○○○○…（第○時）	(注4)	【課題作成上の留意点】 (注1)「1 授業改善のポイント」においては、改善点や工夫点等、本実践における特筆すべき点を簡潔に明記する。以下、この「授業改善のポイント」を踏まえて、重点的に記載する。 (注2)「2(1) 教材『○○○○○』について」においては、教材の特質や魅力及び、その教材を用いてどんな資質・能力を身に付けさせたいか、どんな学力を伸ばしたいかを明記する。 (注3)「2(3) 単元計画」においては、時間数ごとに、主な学習活動とそのねらい・教師支援、評価規準等を簡潔に明記する。 (注4)「2(4) 授業の実際」においては、単元の全てを記載するのではなく、「1 授業改善のポイント」を踏まえて、重点的に記述する。その際、単元計画の第何時にあたるかを明示する。 (注5)「3 成果と課題」においては、児童生徒の学びや姿から、本実践（授業改善）の成果を記載する。その一方で、実践を通して明確になったさらなる課題についても記述する。また、本実践だけでなく、日頃の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の中で、課題や疑問、明らかにしたいこと等について記述してもよい。		イ ○○○○○…（第○時）		
(4) 授業の実際	ア ○○○○○…（第○時）	(注4)	【課題作成上の留意点】 (注1)「1 授業改善のポイント」においては、改善点や工夫点等、本実践における特筆すべき点を簡潔に明記する。以下、この「授業改善のポイント」を踏まえて、重点的に記載する。 (注2)「2(1) 教材『○○○○○』について」においては、教材の特質や魅力及び、その教材を用いてどんな資質・能力を身に付けさせたいか、どんな学力を伸ばしたいかを明記する。 (注3)「2(3) 単元計画」においては、時間数ごとに、主な学習活動とそのねらい・教師支援、評価規準等を簡潔に明記する。 (注4)「2(4) 授業の実際」においては、単元の全てを記載するのではなく、「1 授業改善のポイント」を踏まえて、重点的に記述する。その際、単元計画の第何時にあたるかを明示する。 (注5)「3 成果と課題」においては、児童生徒の学びや姿から、本実践（授業改善）の成果を記載する。その一方で、実践を通して明確になったさらなる課題についても記述する。また、本実践だけでなく、日頃の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の中で、課題や疑問、明らかにしたいこと等について記述してもよい。														
	イ ○○○○○…（第○時）																
3 成果と課題																	
(注5)																	

(注)・受講番号については、実施要項添付の名簿を参照する。

- ・A4判縦長横書き。枚数は1枚（2ページになる場合は両面印刷とする）。
- ・文字の大きさは、10.5ポイント。
- ・文字数は、1行35から45文字程度、1ページ30から40行程度。

4 課題送付先

〒470-0151

愛知県東郷町大字諸輪字上鉾68番地

愛知県総合教育センター研修部基本研修室（山岸 芳樹） 宛て

※封筒の表左隅に「小中10年経験者研修 国語科課題在中」と「受講番号」を朱書きする。

5 問い合わせ先

担当 研修部基本研修室（山岸）

電話 0561-38-9507(ダイヤル)